2022 年度後期授業評価のまとめ

今年度後期の授業評価アンケート調査の結果概要を以下にまとめる。概要を以下に記す。

1. 満足度・達成度ともに、例年同様、平均して高い評価を受けている。

	登録学生数 (研究生、聴講生含む)	回答者		[共通設問Q1] 授業とシラバスの整合性				[共通設問Q2] 授業の効果				[共通設問Q3] 授業の方法				[共通設問Q4] 学習の環境				[GSIDオリジナル設問Q8] 授業満足度				
基礎科目		実数	%	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5
全使科日	67	ع د	52	1	0	4	20	1	ء ا	4	0.7	1	1	- [20	0	1	2	31	1	0	0	15	1.0
2	20	35 5	25	0	0	0	30 5	1 0	3 0	4 0	27 5	0	1 0	5 0	28 5	0	0	3	5	1 0	0	0	15	16
小計		40	46	1	0	4	35	1	3	4	32	1	1	5	33	0	1	3	36	1	0	0		21
\J\!\all	01	40	40	1	U	4	33	1	٥	4	32	Τ.	1	3	33	U		3	30		U	U	13	
プログラム科																								
1	3	2	67	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	0	0	1
2	5	4	80	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	1	3
3	20	20	100	0	0	2	18	0	0	0	20	0	0	0	20	0	0	0	20	0	0	0	5	15
4	8	5	62.5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	2	0	3
5	7	7	100	0	0	1	6	0	0	1	6	0	0	1	6	0	0	1	6	0	0	0	3	4
6	14	8	57.1	0	0	0	8	0	0	5	3	0	0	2	6	0	0	0	8	0	0	1	2	5
7	15	14	93	0	0	4	10	0	0	4	10	0	0	5	9	0	0	2	12	0	1	2	4	7
8	16	10	62.5	0	0	0	10	0	0	1	9	0	0	1	9	0	0	0	10	0	0	0	4	6
9	10	6	75	0	0	0	6	0	0		6	0	0	1	5	0	0	0	6	0	0	0	2	4
10	10	10	100	0	0	1	9	0	0	1	9	0	0	1	9	0	0	0	10	0	0	1	1	8
11	15	15	100	0	0	2	13	0	0	1	14	0	0	2	13	0	0	0	15	0	1	0	5	9
12	11	11	100	0	0	0	11	0	0		11	0	0	0	11	0	0	1	10	0	0	0	3	8
13	16	8	50	0	0	1	7	0	0	2	6	0	0	2	6	0	0	0	8	0	0	1	3	4
14	26	12	46	0	0	0	12	0	0	1	11	0	0	2	10	0	0	0	12	0	0	1	2	9
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·															1	1	1				
小計	176		80	0	0	12	120	0	1	16		0	0	17	115	0	0	4	128	0	3	8	35	86
合計	263	172	63	1	0	16	155	1	4	20	147	1	1	22	148	0	1	7	164	1	3	8	50	107

※共通設問における回答のスケールは、1. Disagree 2. Somewhat 3. Somewhat agree 4. Agree の 4 段階。

※GSID オリジナル設問のみ、1. Strongly disagree 2. Disagree 3. Neither agree nor disagree 4. Agree 5. Strongly agree の 5 段階。

2. 学生の意見・感想

< 肯定的なもの>

- クラスから多くのことを学ぶことができた。
- 講師は学生がグローバルな問題について考え、自国での解決策を考えるよう導いてくれた。また、非常に理解しやすく、丁寧に授業を進めてくださったように思う。リーディング課題も適切であり、Statecraft でのシミュレーションも良かった。
- Statecraft のシミュレーションは、このセメスターで行った活動の中で最も興味深いものだった。慣れるまで時間がかかったけれども、シミュレーションは世界がどのように動いているかを評価するにあたって興味深いツールだった。
- 教材が最新のものなので、とても実践的で魅力的だった。特に、中国やウクライナの話は、現在の状況を理解するのにとても興味深いものだった。
- シミュレーションは、政治や戦争のジレンマについて理解するのに有効であった。
- 授業とリーディングは本当にありがたかったです。授業とリーディングのペースも適切で、非常に興味深いグループディスカッションを行い、授業 にダイナミズムを与える方法とよくマッチしていたと思う。
- 内容が極めて適切であった。法律用語の説明もなされていた。
- 模擬裁判は、学生にとって学問の知識を応用する良い機会であった。ロシアとウクライナのケースを考え、議論するための努力は、学生である私たちが頭の中で知識を整理するのに確かによかったと思う。少し要求されることが多くなるけれども、このような活動をもっと小規模に(毎回の授業後に)行うことができれば、非常に興味深い。
- 毎週行われる小テストは、生徒のパフォーマンスを向上させるのに良いと思う。
- 非常にモチベーションの高いコースで、国際開発研究における先進的なツールや方法論の活用を促している。
- 他の大学のコースではほとんど見られないような新しい手法やツール、ソフトウェアが含まれているため、地域開発の授業は継続的に提供された方が良いと思う。
- このコースはよく考えられており、使用されているコンテンツは慎重に選択されていると思う。このコースでさらに多くのことを学び、他のモジュールや、修士課程修了後の職場でも使えるスキルを身につけることができた。
- このクラスはとても楽しく、多様な教授法が用いられていて、実際の状況に基づいて批判的に考えるよう学生を喚起するものであった。
- それぞれのテーマについて、映像や事例を用いながら、よりインタラクティブに議論することができた。

<批判的なもの、改善を求めるもの、提案をするもの>

- 受講に必要な最低限のレベルを明記してほしい。
- TAセッションで授業時間を延長してほしい。
- もっと時間を使って、様々なテストによる回帰結果を追加で詳しく説明した方が良いと思う。
- 人道支援活動や移民に関連するような題材をもう少し提供してほしい。
- セキュリテージョンの理論について、もっと読み込む必要があるように思う。あのトピックは難しかった。
- クラス内での小規模なセッションだけでなく、もっと大規模なディベートセッションがあれば、ディベートに行く前に家で一緒に準備する時間が持てるのでうれしい。
- グループ活動や基本的な英語文法を確認する機会を増やしてほしい。
- このコースは NUCT を使って、うまく構成・運営されているが、講師の責任ではないところで、NUCT のシステムが機能していないことがあった。
- 毎週、プレゼンテーションの後に、講師による各トピックの説明やディスカッションを行い、質疑応答を行うことを提案したい。政治学のバックグ

ラウンドがない学生が、トピックをより理解するのに役立つと思う。

- 理論的な分析が少ない。
- 課題の字数制限を増やしてほしい。120字以内で十分に質問に答えるのは難しいところがある。
- このコースは非常に理論的で、先生はすべての学生が毎週トピックに関する資料を読むことを奨励していると理解している。しかし、毎週プレゼンテーションを行うという方法では、各テーマが各プレゼンターの説明に頼ってしまい、正直なところ、深く理解することができなかったので、授業方法の変更を提案したい
- テキストに書かれている以外の、今の世の中に関連したケーススタディをもっと実施してもいいかもしれない。そうすることで、より深く内容を理解することができるようになると思う。
- 様々なトピックについて、講師からの説明がもっと欲しい。また、オンライン資料の利用を減らして欲しい。
- グループディスカッションを増やしてほしい。もっと教室でのディベートを増やしてほしい。もっと頻繁に面白いアクティビティを行うべきだと思う。
- 学生をアクティブにさせるために、もっと実践的なセッションやプレゼンテーションが必要だと思う。
- このコースは理論的に学ぶのが難しいので、もっと実践的なロールプレイを増やしてほしい。
- タームペーパーの分量がもう少し、少ないものだと良い。
- プレゼンやタームペーパーについて、もっと早くから教員から的確な指示を頂けるとより良かったように思う。
- 課題を増やしてほしい。毎回の授業のポイントをつかむのに役立つ。
- 教授が、あるトピックに興味がある学生に対して、必須でないリーディングをいくつかリストアップしてくれるとありがたい。
- プログラミングの初歩的なワークショップがあれば、非常に有益だと思う。
- TAの授業は、具体的な筋道を立ててやってもいいと思う。TAは素晴らしいが、内容がバラバラなことがあった。
- Aセッションは、レベルが違うので、少人数制にした方が良い。
- JDS (日本の開発経験) の各セッションで、ディスカッションの時間を増やしてほしい。
- JDE や I2ID のようなコースが狙いとするものについては理解している。JDE や I2ID のようなコースは、開発に関する多くの分野や側面について、開発問題についての包括的な見方を与えることを目的としていると思う。しかしながら、先生も受講生も、ただ早く授業を終わらせようとしているように感じられ、それは残念なことだと思った。自分のプログラムでカバーされていない多くのことを学べるから、個人的にはこのような入門コースは好きです。ただ、残念ながら、先生方はただプレゼンをされるだけで、自分たちの専門性をあまり強調されることがなく、違うプログラムから来た学生の興味を惹くことがなかったように思う。もちろん、先生方はベストを尽くされたと思うが、このコースを大教室で、しかもオンラインで教える環境は不利なものであると思う。
- 「日本の開発経験」はオンラインでなく、対面で実施してほしい。
- 3. 授業の目的やテーマ設定、授業内容の難易度や課題の質と量について(<u>全体の統一感・つながり</u>、<u>異なるバックグラウンドをもつ学生への対応、学生の</u>レベルやバックグラウンドの差による問題など)
 - 昨年度の学生からのフィードバックを受け、コースの学力水準を大幅に引き下げたが、一部の学生(30~40%)は、コースの学力水準や課題のレベルが未だ高すぎると考えているようである。他方で、適切だと考えている学生もいることから、今後もバランスを取るようにしたいが、修士課程ということもあり、レベルを下げたものを続けるわけにもいかないと思う。

- 出典に挙げたリーディングの学術レベルが「高すぎる」「高い」と答えた学生が非常に多く見られた。彼らの学習進度を高めるために、早い段階で教材を考えておきたい。
- 学生のレベルが様々なため、全員を満足させられる授業のレベルを設定することは難しい。課題を出しても、読んでくる学生と読んでこない学生が 綺麗に分かれており、両方のグループを満足させられる課題設定もまた難しい。
- 自分の発表の前だけリーディング課題を読む学生が多いように思う。毎週、参加者全員にリーディング課題を課すという対策が必要ではないか。
- 他研究科の学生も交じっていることから学生の理解力に差が大きいため、どこに合わせた授業を行うかは、いつも頭を悩ませている。
- 「日本の開発経験」はさまざまな分野についての授業から構成されるものだったが、各セッションでディスカッションやアクティビティが行われることは、JICA の方の講義最終日を除いてほとんどなかった。また、このコースにおいて参考となるテキストがあるべきだと思う。多くの授業が講義とパワーポイントによるもので、学生側の理解に差ができてしまっている。各学生が自身の専門分野とは大きく異なるトピックについての授業に出席し、それについてコメントペーパーを書かなければならないということに対しては、批判的に思う。
- 今現在の日本の開発経験(JICA がどのように国際開発に取り組んでいるか、日本の開発経験が他国の開発のためにどのように応用・活用されているかなど)について、もっと内容を充実させてほしい。
- 目的やトピックは問題ないようだが、理論も課題も内容については改善ができるように思う。
- インターアクティブな活動を増やしてほしいという要望がある一方、教員による説明(講義)の時間を増やしてほしいという要望もある。発表やディスカッション時間を増やせば学生は楽しいかもしれないし、教員の授業準備の手間も省けて楽ではある。しかし、演習ではないので、講義を通じて一定程度の知識レベルをあげることは大切だと思う。ただし、学生が多数の授業を履修しすぎているため、各授業の読書課題をきちんと読んでくることは、ほぼ期待できない。
- 4. 教授法について(<u>参加型・双方向的授業</u>、<u>異なるバックグラウンドをもつ学生への対応、学生の自主性を促す試み</u>、<u>ビジュアルツールの使用の是非、基</u> 礎知識の習得、学生による発表など)
 - PPT のスライドのみで授業を行うのではなく、他の視聴覚教材を導入することで、より学生の興味を促すことができるように思う。
 - ケーススタディにより重点を置きたい。
 - ディスカッションの時間を増やし、講義のパートを短くする。
 - 今年度は少人数でのディスカッションに頼りすぎていたかもしれない。来年度はもっと大人数でのディスカッションを増やしたいと思う。
 - ライティングや評価の活動の一部を、グループワークを含むように講義を再設計する。引用の方法や語彙の使い方をもっと指導してほしいという学生もいるようなので、今後このような部分にも、もっと力を入れてもいいと思う。
 - 学期中に何人かの学生からリクエストされたので、学生の文献発表のための提案を多めにすることにしたい。良いプレゼンをした学生もいれば、そうでない学生もいた。すべての学生が毎週リーディング課題を読んでから授業に出席するように指示したが、そうでない学生もいた可能性がある。 発表する前に、疑問があれば教員に質問に来るように促すことが必要であると感じる。
 - 学生の意見を読むと、正反対の要望が含まれており、全員を満足させることは難しいと感じる。無料で提供されている質の高いオンライン・コースを使って授業をしたが、その部分を減らせという要望があったので、減らすことを検討する。
 - 講義、学外からの専門家の招聘、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイのバランスは今年もよかったと思う。他方で、パートナーシップのあり方について検討・議論する時間を十分に確保するために、ロールプレイのセッションを1つ増やしてもよかったように思う。
 - 最低限の宿題だけでなく、力のある学生がさらに勉強するための参考文献も追加したい。クイズの導入も検討したい。
 - 学生のコメントから、ゲーム、ロールプレイ、ディスカッションなど、様々な教授法が混在していたことが、学生にとって楽しいものだったことが。

- うかがえる。次回もこのようなアプローチを続けながら、質を高めていきたいと思う。
- パンデミックにより中止となっていた、企業やトレーニングセンターへの訪問を再開する必要がある。
- 5. 学生の授業に対する取組みについての感想(<u>学生のマナー、自主性、発言頻度、参加型・インターアクティブな授業形式、履修人数</u>など)
 - 全体として、授業に対する学生の態度は良好であった。学生の多くが高いモチベーションを持って、アクティブに学んでいる。
 - 学生の大半が6時間以上かけて準備し、熱心に授業に参加してくれたようだ。その努力に感謝したい。
 - 授業への出席率も高く、学生は優秀であった。
 - 彼らは学期末になると、ほとんどエンゲージしています。しかし、はじめは講師の話や説明を聞くことに慣れてしまうことで、質問して自分の学習に責任を持つといった準備ができていない人がほとんどだった。毎週の課題は、そのギャップを見極め、より明確な指示を出すのに役立った。
 - 学生のレベルに大きな差がある。ほとんど発言せず、黙っている学生が数名おり、授業評価の結果をみると、彼らの授業満足度は相対的に低かった ものと想像している。しかし、いくら促しても発言したくない学生に、無理やり発言させることはできない。教員がやれることには限界がある。
 - 学生の自発的な発言に頼るのではなく、学生の発言を促す方が良いかもしれない。
 - 悪くはないが、質疑応答の発言者に偏りが見られた。
 - 熱心に聞いてくれている。宿題をどの程度消化してから授業に臨んでいるのかについて不明。予習していないと思われる学生も散見される。
 - 課題締切の2時間前に延長をリクエストするなど、教員が適切と思わないような交渉を行おうとする学生もいて、気になるところである。宿題を出すと、ついていけないと文句を言うような学生もいて困る。
 - もっとアクティブな授業にするためにも、日本の開発経験で事前に出されるリーディング課題を、他の受講生はきちんと読んでくるべきだ。また、本コースの受講を通して、JICA や DFID、USAID などの開発機関による報告書も読むべきだと思った。